

県医連会報

No. **1**

2015.4



為内の一本桜(八幡平市)

岩手県立病院医師連合会

県医連理事会報告

平成26年度

第6回県医連理事会

日 時：平成27年3月20日(金) 午後5時15分～

場 所：岩手県立中央病院 視聴覚室

出席者：佐藤耕一郎、平野拓司(磐井) 藤澤宏光、田村乾一、小山田尚(中部)
佐熊 勉、島岡 理、宇佐美 伸、橋本朋子(中央) 郷右近祐司(胆沢)
白石直人、下沖 収(久慈) 中野達也(大船渡) 長久保宇有(遠野)
菊池利夫(山田) 遠野千尋(釜石) 星 晴久(大迫) 石井基嗣(江刺)
村川泰徳(南光) 黒田継久(大槌) 工藤正一郎(住田)
杉山照幸(大東)

議 長：田村 乾一

議 題

- 【1】知事との懇談会の報告
- 【2】久慈ブロック会議の報告
- 【3】初任医師研修会について
- 【4】医療局との懇談会について
- 【5】医師連総会の報告
- 【6】医師連シンポジウムの日程について
- 【7】各病院からの報告(大東病院)
- 【8】各委員会(長期経営計画、病院支援、医療情報システム)より報告
- 【9】今年度で辞任される先生方について
- 【10】辞職医師のアンケート調査結果
- 【11】その他

【1】知事との懇談会の報告

日程：平成27年2月16日(月)

懇談会／16：00～18：00

懇親会／18：00～20：00

場所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

発表演題

① 意思決定支援の現場より カシオペア研究会から『HONSE、そしてHOTARUへ』

二戸病院 高橋 浩 先生

- 1)人工栄養が、意思決定の点において地域医療現場で深刻な問題
- 2)地域に合わせた人工的栄養補給法のガイドライン『口から食べられなくなった時に考えること』とガイドライン導入支援ツール HONSE を作成
- 3)これにより本人及び家族が望まない医療が減少
- 4)延命治療について、自宅や施設での看取りを支援するツール『HOTARU：カシオペア版事前指示書』を作成

内容：①今のあなたについて ②延命処置について ③告知について

④緩和医療について ⑤情報の公開範囲について

5)2006年より『在宅ホスピス』延べ106人で在宅での看取りは26人(24.5%)

《知事のコメント》

標準的なガイドライン、意見の共有、組織的体制を作成することが重要とよくわかった。

② 釜石病院でご活躍されるシニアドクター達

釜石病院 遠野千尋 先生

- 1)県立病院、診療センターのシニアドクターの採用：65歳定年後シニアドクター採用は13施設で計19名
- 2)釜石病院には4医師が勤務しており、①放射線治療科 ②麻酔科 ③画像診断科 ④産婦人科に在籍中
- 3)採用の結果 ①放射線治療件数の増加 ②麻酔科依頼の増加、研修医指導の充実 ③画像読影件数の増加 ④分娩件数の増加
- 4)結論：①4人のシニアドクターの献身的な働きにより釜石病院診療体制が強化 ②釜石、大槌の医療がレベルアップ
- 5)県へのお願い：先生方の手当、職場環境の改善をお願いしたい。

《知事のコメント》

シニアドクターの質の面での貢献が大きい事がわかり、このような活躍はありがたい。

③ 医師過剰労働を引き起こす岩手県における救急の問題点

磐井病院 佐藤耕一郎 先生

- 1)辞職医師へのアンケートで日当直の軽減に対する要望が多く、県立病院の救急

医療について検討

- 2) 磐井病院の問題点は、①一次も二次救急もすべて磐井病院を受診 ②一関市の二次救急輪番制の崩壊
- 3) 県病全体では ①救急車の70%以上が県病に来院 ②救急の80%以上は一次救急 ③複数の救急隊から直接病院に連絡がはいる ④地域病院では当直回数が多く、基幹病院では患者数が多い ⑤研修医の少ない病院での研修医の負担が大きい
- 4) 対策：①二次輪番病院は、常勤医を当直者とする ②コンビニ受診をなくす運動の展開(県立病院サポーターズ) ③1か所の消防本部がすべての救急車のコントロールをするシステムの構築 ④地域病院に外注の当直医を増加 ⑤定期的な研修医研修状況の各病院比較
- 5) 理想的な救急医療：県立病院の入り口に一次救急診療所を作り、診れない患者はすべて県立病院に搬送する。

《知事のコメント》

この発表をもとに県として救急医療の検討を行う。

④ 子育てしながら働き続けるために

磐井病院 叶城倫子 先生

- 1) 困ったこと：①支援制度が複雑 ②心無い一言 ③マタハラ、パワハラ
- 2) 妊娠中の勤務改善：①出産しやすい環境 ②個々の体調に合わせた勤務内容の見直し ③産休・育休時の代診を派遣するシステムの整備
- 3) 産後の職場復帰を妨げる要因：①職場の無理解 ②長時間勤務の強要 ③託児施設や家族の協力が無い ④安定した収入(夫が医師)
- 4) ママドクター制度の提案：
 - ①県立病院で働きたい育児中の女性を県が受け入れ ②各種支援制度の適応をアドバイス ③希望の勤務内容で各病院に県が交渉し、派遣
- 5) 上記制度により ①短時間でもいいなら働きたい ②医師不足の解消の一助になりたいという女性医師に活躍の場を与えられる
- 6) まとめ：①育児支援制度の利用推進の呼びかけ ②上級医(特に院長、科長クラス)の意識改革 ③ママドクター制度の導入

《知事のコメント》

ママドクター制度は良いことではないか、ぜひ実現しましょう。県としてのシステムを作るようにする。

⑤ 岩手の緩和ケアの現状・課題・展望

中部病院 星野 彰 先生、大船渡病院 村上雅彦 先生

- 1) 緩和ケア：昔は癌の末期にのみ。現在は癌治療と緩和ケアの同時進行
- 2) 目標：いつでも・どこでも緩和ケア、癌になっても安心して暮らせる街
- 3) 緩和の課題：①緩和ケアを提供する施設、人材の不足 ②地域間の偏在

- ③医療者の意識の差 ④緩和ケアの県民への情報伝達不足
- 4)今できる取り組み：①緩和ケア専従ナースとスタッフの確保
②ソーシャルワーカーの増員 ③県北沿岸の拠点病院に緩和ケア病床を設置
- 5)気仙地域の問題：①患者・家族の啓発・介入が必要 ②関心が薄い
③連携が弱い ④情報を得る機会が少ない ⑤市民活動がない
- 6)岩手の緩和のこれからやるべきこと
①医療者の充実 ②医療・介護・福祉の連携 ③県民への啓発

《知事のコメント》

緩和ケア病棟を充実させ、さらに、脳卒中、認知症に対しても同様に行い、県全体の医療レベルアップを行う。

※各先生発表スライドについては医師連ホームページを御覧ください

<http://www.ishiren.gr.jp> (ユーザー名：ishiren パスワード：2367)

5月中旬まで 各種文書→その他文書→2015.2.16 知事との懇談会プレゼン(1)～(5)

5月中旬以降 各種文書→知事・県議との懇談会→2015.2.16 知事との懇談会プレゼン(1)～(5)

【2】久慈ブロック会議の報告

『医師連の活動について』 医師連 佐藤耕一郎会長より講演

- 講演の内容 I：久慈病院で医師連に深く関係している先生
II：なぜ、医師連は誕生したのか？
III：今の医師連の目標
IV：過去に医師連が行ってきた主なこと
V：H26年度に医師連が行ったこと

その後、懇親会が行われた。

尚、ブロック会議の費用は、最大出席病院の会員数×5,000円まで認められる。

推進をお願いします。

【3】初任医師研修会について

日時：平成27年5月29日 14：30～

場所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

講師：安藤哲朗 先生(安城更生病院)

《理由》・昨年のアンケート調査で非常に評判がよかった

- ・講演内容に重複があったとしても受講者が昨年と違う医師である

【4】医療局との懇談会について

日時：平成27年5月22日 18：30～(平成27年度第1回理事会終了後)

場所：ホテルメトロポリタン盛岡 本館

【5】医師連総会の報告

日時：平成27年1月24日(土)

場所：岩手県立中央病院

出席者+委任状で規定数に達し会は成立

医師連としては「医師連1年間の活動」について佐藤耕一郎会長が発表した。

発表内容は下記のごとく。

① 県議会議員との懇談会

② 知事との懇談会

③ 医師連繰越金が多い件

○減額方法について

H26.3月の状態 1)貯金2,250万円(平成元年からほとんど変化なし)

2)現在の単年度 歳入≒歳出

▶会 員：2,000円→1,000円/月

▶研修医：1,000円→500円/月

▶1年で684万円減額の予定

▶期間：平成26年4月～平成27年3月

▶実際の見積もり(平成27年3月まで)：約530万円減

▶総額2,250万円→1,732万円に減額

▶最終的には1,000万円ぐらいまで減額したいので、会費半額は、もう1年継続してもよさそうである。

◎会費半額をもう1年継続することが承認された

④ 職員定数増加

⑤ 医師連ホームページリニューアル

⑥ 初任医師研修会

⑦ 医師連シンポジウム

⑧ 中部、東和、遠野病院ブロック会議

⑨ 磐井病院と医療圏住民との対話について

⑩ 50周年記念誌の発刊

⑪ 1号医師協議会

⑫ 院内暴力対策

【6】医師連シンポジウムの日程について

平成27年10月10日(土)マリオス会議室(150名用)のみ確保可能であった(秋は結婚式シーズンのため会場の確保が難しい)→同日ですすめる。

テーマとして「職種毎の理想の異動について」を検討中。

・管理栄養士がいらないため糖尿病に関する管理料を算定できない

・精神科では、臨床心理士がいてくれることによって非常に助かるが、国家資格ではないため定員として数えられていない 等の問題あり

【7】各病院からの報告（大東病院：杉山照幸病院長より）

津波以外の原因で壊れた病院は大東病院のみであった。

・入院診療再開まで

平成23年3月11日 東日本大震災で病棟使用不能、プール運営不能

平成24年5月15日 第1回医療局と地域住民との意見交換会(約200人)9月まで3回開催

平成24年12月27日～平成25年3月20日 建築設計

平成25年5月23日 岩手日日に増改築の記事掲載、院内プール廃止

平成25年6月～既存棟解体着工 7月解体開始 9月～管理棟増築 10月～既存棟改修

平成26年3月20日 改修工事完了

平成26年4月23日 入院診療再開（1病棟40床の最小県立病院）

入院受け入れまで

平成26年4月1日 転入転出

- 医師2名転出・2名転入(総入替)(常勤は2名)
- 看護師1名転出・20名転入(うち4月1日に赴任したのは8名のみ)
- 薬剤科1名退職・2名転入、臨床検査科1名転入
- 事務局1名転出・1名転入(事務局長)
- 栄養科1名転入、リハビリ1名転入
- 看護師全員がそろったのは4月16日(水)

平成26年4月21日(月) 病棟再開説明会

平成26年4月23日(水) 入院受入れ(患者1名)

- ・平成26年度の入院状況は患者数118名、緊急入院患者72名（全体の約61%）、平均年齢83.9歳、1か月の平均：患者数9.8人、在院日数21.4日

・病院機能

〈外来診療〉

- 内科2診(うち1診は毎日応援)、外科(週1回応援)、整形外科(週4日)、皮膚科(週1日)
- 神経内科、循環器科は今年度より休診

〈入院診療〉

内視鏡(上部消化管、下部消化管)

訪問診療(3～4件)

特別養護老人ホーム嘱託医(週1回回診)

診療応援(千厩病院外科、磐井病院産業医)

平成27年度より

遠野病院にて上部消化管内視鏡(月1回)

高田病院にて下部消化管内視鏡(月1回)

- ・院内委員会、日当直の負担大きい
- ・現在は10：1で運営

- ・平成27年度は、地域包括ケア管理料の取得を目指す（8～12床）

そのために

- リハビリスタッフが2名以上必要…現在定員外配置1名のみで算定できず
- 救急指定、または在宅療養支援病院となること
- データ提出

常勤医の増員(困難)

【8】各委員会(長期経営計画、病院支援、医療情報システム)より報告

特になし

【9】今年度で辞任される先生について

菊池利夫 先生(山田)

下沖 収 先生(久慈)

宇佐美 伸 先生(中央)

【10】辞職医師のアンケート調査結果 〈資料1〉

アンケート実施時期：H22、25、26、27年1月…計4回施行

対象：前年度3月までに辞職した県立病院医師

方法：アンケート用紙を郵送し調査

回答数（分母は住所のわかった退職医師）

H21:14/27名 H23:7/24名 H25:3/8名 H26:5/12名

結果 ⇒後掲スライド参照

結論：① 医師の満足度は上がっている

② 過重労働対策が必要

③ そのなかでも日当直の軽減→救急患者対策が必要

【11】その他

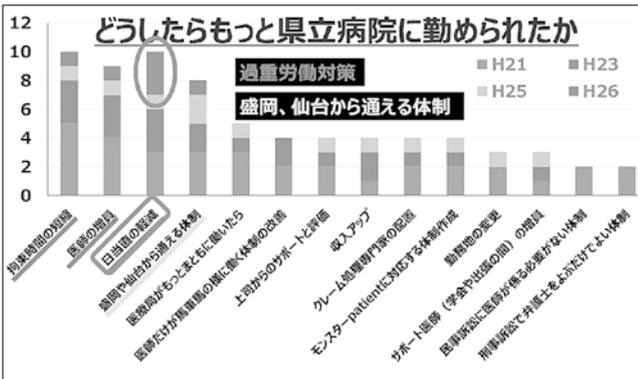
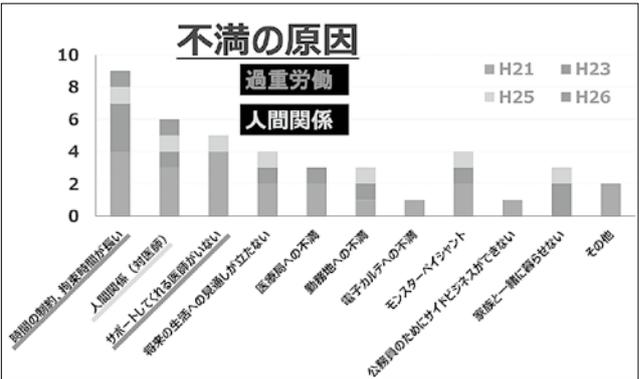
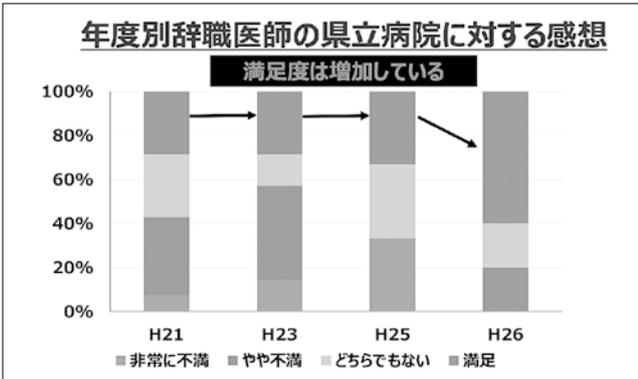
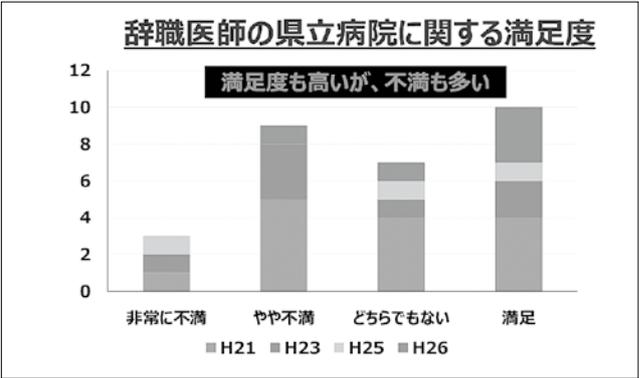
- ・次回の医師連理事会は、平成27年5月22日（金）
場所はホテルメトロポリタン盛岡 本館
終了後、医療局との懇談会予定
- ・次回の病院報告は地域診療センターに依頼予定

資料1



辞職した県立病院医師へアンケート調査

- ▶ 時期:
 - ▶ H22, H25, H26, H27年1月に計4回施行
- ▶ 対象:
 - ▶ 前年度3月までに辞職した県立病院医師
- ▶ 方法:
 - ▶ アンケート用紙を郵送にて調査
 - ▶ 回答数(分母は住所のわかった退職医師)
 - ▶ H21: 14/27名
 - ▶ H23: 7/24名
 - ▶ H25: 3/8名
 - ▶ H26: 5/12名



結論

- 1 : 医師の満足度は上がっている
- 2 : 過重労働対策が必要
- 3 : そのなかでも日当直の軽減
→ 救急患者対策が必要

